

2019年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人聖十字学園

幼保連携型認定こども園聖十字幼稚園

1. 本園の教育目標

愛のうちに喜びをもって生き、自分の力で発見し、造り出しつつ、みんなと共に伸びゆく子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 「保育部」と「教育部」の保育教諭同士が互いの保育・教育に関心を持ち、連携の可能性を探る。
- ② 2号認定こどもの急増に伴い、保育時間の長時間化に対応した園生活の流れを工夫し、実践する。
- ③ 就労する母親が増加していく現状に合わせ、「母の会」の役員・行事などの負担軽減を図る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況 (A…達成した B…おおむね達成した C…どちらともいえない D…改善が必要である)

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	B	1年間や在園期間中など、見通しをもった保育が課題
2	保育のあり方、乳幼児への対応	A	保育教諭が子どもの利益を最優先して取り組んでいる
3	保育者としての資質と能力	B	子どもの発達段階や発達課題を理解し保育に生かすことが課題
4	保護者への対応	A	発行物や対話により丁寧な対応ができています
5	地域の自然や社会との関わり	C	開智小学校との交流の実現や、園外保育時のあいさつ
6	研修と研究	C	研修会参加の機会に差がある

4. 総合的な評価結果評価 (A…達成した B…おおむね達成した C…どちらともいえない D…改善が必要である)

評価	理由
B	<p>8月開催の全日私幼東海北陸研究大会では話題提供園として発表したが、日常実践している本園の保育の良さを再確認することができた。職員間で互いの保育・教育内容を知らないことに気づいたり、0～2歳児と3～5歳児の保育・教育の連続性や職員同士の連携の必要性を感じたりと、幼保連携型認定こども園に移行して3年目の今年度だからこそその気づきもあった。</p> <p>107年の歴史ある園だが、他園での保育経験者が多く勤務している。だからこそ、本園が進む方向性を明確にし、職員間でも保護者に対しても「見える化」していくことを大切にしたい。</p>

5. 今後取り組む課題

	評価項目と課題	具体的な取り組み方法
1	保育の計画性	発達段階を理解した上で、個々の保育教諭が見通しをもつ
2	保育のあり方、乳幼児への対応	各学年の保育内容を交換し合い、園としての課題を見出す
3	保育者としての資質と能力	保育観の違いが目立つため、全員研修の必要性を感じる
4	保護者への対応	丁寧で、公平で、信頼して預けてもらえる関係性を保つ
5	地域の自然や社会との関わり	町会長に来園していただくなど地域交流の場を設ける
6	研修と研究	保育教諭が年間で一人あたり2～3回は研修に参加する

6. 学校関係者評価委員会の評価・意見

- 評価項目の達成及び取り組み状況の5と6は評価が「C」となっているが、2020年度事業の中に改善のための取り組みが計画されているとよいと思う。
- 自己評価の結果に「A」「B」「C」がいずれも見られる。他校種でも自己評価を行うが、つい無難にBを選びがちである。そのような傾向が無く、良い評価結果になったと思う。
- (質問) 現在、認可定員を越える園児数だが、認可定員を増やす考えはあるか?
(回答) 無い。現在の施設面積や職員数などは、現定員の165名が最大収容人数と考える。

